

# 幼稚園から小学校へ

—その接続に視点を当てて—

幼児教育研究会議

研修員 小林 美代 (川崎市立高津小学校)

森島 美子 (川崎市立有馬小学校)

北相模 和枝 (川崎市立新城幼稚園)

三谷 千恵子 (川崎市立生田幼稚園)

指導主事 小林 朝香

## I 主題設定の理由

平成 17 年 1 月に、中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」が出され、「発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実」を施策の一つの柱として、幼児教育と小学校教育との連携の推進が挙げられた。また、川崎市においても平成 17 年 3 月に「かわさき教育プラン」が策定され、基本施策の一つとして「幼稚園・保育所と小学校の連携の推進」が挙げられている。平成 17 年度川崎市小学校長会各校種連携研究会議の報告によると、交流・連携の実態について、市内小学校と幼稚園の取組は 48.2%、保育所とは 47.4%と半数近い割合を示しており、幼稚園・保育所と小学校の連携についての関心が高まっていることが伺える。そこで、本研究会議では、幼・小間の接続部分に視点を当て、その段差を明らかにすることにより、具体的な方策を探ることがさらなる連携の推進への具体的な一歩となると考え、本研究主題を次のように設定した。

幼稚園から小学校へ — その接続に視点を当てて—

また、本研究のねらいを「幼小間の段差について探り、その接続について具体的な方策を提案する。」ことと、とらえた。

## II 研究の内容

### 1 研究の方法

幼・小間の段差について探り、その接続についての具体的な方策を提案するに当たり、研究の方法を含めた研究の構想を次のようにとらえた。

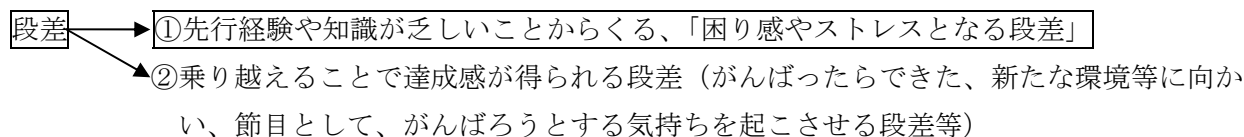
主 題	幼稚園から小学校へ —その接続に視点を当てて—
ねらい	幼・小間の段差について探り、その接続について具体的な方策を提案する
方 法	(1) 課題の明確化 幼児教育研究会議 (H15~17) の研究から課題を明確にする (2) 実態の把握 1 聞き取り調査等 (教師・1年生・保護者) の分析・考察 (3) 実態の把握 2 幼稚園・小学校観察調査の分析・考察 (4) 課題を解決するための具体的方策の提案

### 2 研究の結果

#### (1) 課題の明確化 幼児教育研究会議 (H15~17) からの課題を明確にする

平成 15~17 年度の幼児教育研究会議の研究から課題を整理すると、幼稚園から小学校への接続

に関して、「教師間の相互理解の必要性」や「育ちを見通した連携」、「保護者への発信・啓発」が挙げられる。そこで、これらの課題を踏まえ、幼・小間の段差の解消に焦点を当て研究を進めることとした。また、研究を進めるに当たっては、平成 15 年度の幼児教育研究会議の「段差」の定義を引用し「幼稚園と小学校の教育課程や教育の内容・方法の違い、人的・物的環境の違うところ」とし、さらにその段差について、次の①と②に分けてとらえることにした。



本研究会議では、今回、①「困り感やストレスとなる段差」に焦点を当て、その段差を解消するための手立てを探り、具体的な方策の提案をすることとした。

## （２）実態の把握 1 聞き取り調査等から

「困り感やストレスとなる段差」を探るため次の方法で聞き取り調査（アンケートを含む）を行った。

### ① 聞き取り調査等の対象

- ・ 1 年生担任及び過去に 1 年生を担当したことのある教師 15 名（平成 18 年 5 月実施）
- ・ 1 年生児童（川崎市内小学校：幼・小連携研究実践校の資料から。平成 17 年 4 月実施）
- ・ 1 年生保護者（家庭訪問時：平成 18 年 4 月）

### ② 聞き取り調査等からの困り感のまとめ

a: 1 年生の担任等から見た 1 年生の困り感 b: 1 年生の困り感 c: 担任の困り感 d: 保護者の困り感

	困り感の内容
a	・ 時間で行動する・自分の教室がわからない・校内が広い・1 日の流れがわからない・始業前の準備・和式トイレの使い方・自分で家に帰る・集団で行動することが多い・新しい行事や新しいことへの不安・大きい子（上級生）への不安・友達とのつきあい方等
b	・ 最初に何をしたいか・部屋がどこにあるか（教室・職員室・保健室等）・先生がわからない・休み時間が少ない・お母さんが迎えに来ない・学校への道がわからない・1 年生より偉い人がいる・友達がいやなことを言う・友達にたたかれた・いやなことをされた・いじめられた・うるさい人がいる・給食当番・勉強がむずかしい・掃除が大変・保育園（※）は疲れないけど学校は疲れる・ころんだとき・おなかが痛くなること・いやな気持ちになる・日直等
c	・ 幼稚園や保育園での様子（1 日の流れ、活動の内容等）がわからないなど
d	・ 給食・学校の様子がわからないなど

（※）川崎市においては、「保育園」という名称が一般的に使用されているため、以降は「保育園」という表記を使用する。

考察：

a～d の困り感を KJ 法で整理すると、困り感やストレスとなる段差については、大きく「環境の変化」「生活様式の変化」「友達とのかかわり方」「給食・清掃」「授業」などにまとめられた。教師側は「環境の変化」や「生活様式の変化」を多く挙げているのに対し、児童側は「友達とのかかわり方」や「給食・清掃」などを多く挙げている。ここに教師と児童との間の困り感に対してのとらえ方のズレがあり、このような点も段差になる要因と考えられる。

### (3) 実態の把握2 幼稚園・小学校観察調査

小学校教諭による幼稚園観察調査（6月実施）・幼稚園教諭による小学校観察調査（10月実施）を行い、共通項目（教師のかかわり方・言葉かけ・活動の流れなど）のほか、1年生の困り感で多く挙げられていた「友達」「給食・清掃」「授業」の観点も加え観察調査を行い、結果と考察について次のようにまとめた。

#### <結果と考察> 幼稚園・小学校観察調査のまとめ

小学校教諭からみた幼稚園	幼稚園教諭からみた小学校（1年生）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園では環境からの活動展開への工夫、配慮がされている（活動の予測、事前準備、環境からの刺激等）・ほっとできるスペースの考慮がされている・幼児は絶えず動いていて活動量が多い・教師は、一人一人に言葉かけ（何度も同じことを）をしたり、スキンシップ（おんぶ、だっこなど）のあるかかわり方をしている・教師と保護者とのかかわりが多く、距離が近い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定の時間、決まった席で一斉に授業を受ける・物を使わず共通なイメージで遊びを展開・友達との遊びでストレスの解消（休み時間）・児童は適度に給食準備の合間などに、邪魔にならない程度に友達とふざけるなどして息抜きの時間を見出している・教師はできるところは児童に任せ、必要に応じて個々に対応・給食、清掃の一連の流れを幼稚園と比較すると短い時間で行っている。皆、よく動いていた。</li> </ul>
<p>&lt;明らかになったこと&gt;</p> <p>一斉指導が多い小学校に対して、幼稚園では、個々の興味・関心や発達の違いから考え出された環境を通して遊びを展開していく学習方法が、異なる点として挙げられた。⇒<b>学習形態・方法が異なる</b> また、実態からは「絶えず動いている。活動量が多い。」という園児に対し、1年生は「給食準備の合間などに、邪魔にならない程度に友達とふざけるなどして息抜きの時間を見出している。」「物を使わず共通なイメージで遊びを展開」「友達との遊びでストレスを解消している」など、新たな環境での成長が見出された。⇒<b>気分転換の方法が異なる</b> 幼稚園では、「スキンシップ（おんぶ・だっこなど）のあるかかわり方」「保護者とのかかわりが多く、距離が近い。」という点もあげられ、1年生になって急に遠くなる担任の存在に、親子共々戸惑いを感じているのではないかとことが挙げられた。⇒<b>担任とのかかわり方の違い</b></p>	

#### <観察調査から考えられる提案内容>

小学校では	幼稚園等では
<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝の出迎え（靴箱等での声かけ）●朝の会の工夫●絵カードの提示（1日の流れ・給食・当番の仕事等）●短いセンテンスで明確な言葉●肯定的な言葉かけ（「まちがえてもだいじょうぶ」のクラス内の雰囲気づくり）●幼稚園での歌・手遊び・遊びのリリース●スキンシップを図る●保護者との距離を近く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●話し手に注目して聞く・話す●教師がすぐにやり方を示すのではなく、子どもたちに考えさせる機会を多くする●お弁当の準備方法・清掃の見直し●同じ目的に向かった活動等の経験を取り入れる</li> </ul>

### (4) 課題を解決するための具体的方策の提案

これらの、聞き取り調査や小学校・幼稚園の観察調査を通して、困り感やストレスとなる段差への具体的な方策の提案について、その行程を**提案1**を例として示す。

#### <提案1について>

##### 1年生自身の困り感

・部屋がどこにあるか（教室、職員室、保健室等）・ころんだときにどこへ行けばよいのかなど



## 考 察

小学校は、幼稚園・保育園とは広さや高さなど建物自体の規模が異なり、広くて大きいという心理的な圧迫感や混乱が考えられる。併せて、幼児は、位置関係の感覚が未発達なため、たとえばトイレから戻るとき左右が逆になり教室がわからなくなるなどのことが、不安や戸惑いの1つの要因ではないかと考える。毎日生活する場で、行きたいところへ迷わず行けることが、自信をもって行動することにつながっていくと考えられる。

## 考えられる取組の視点

校内の位置が視覚でとらえられるようにする。(①)

## 具体的方策の提案

### 提案 1

### ● 図示する (マーク・顔写真の提示)

- ・職員室のドアに1年生の担任等の顔写真を低い位置に貼る。(各教室等同様)・保健室のドアにマークと養護教諭の顔写真を貼る。入学式や入学当初の1年生の各教室をまわって養護教諭の紹介をする。
- ・1年生の教室から職員室や保健室までの廊下に色分けしたテープを貼る。

このようにして、それぞれの困り感を基に考察し「考えられる取組の視点」を挙げ、「具体的な方策の提案」を行った(「表1 実践提案例1」を参照)。

また、「表2 実践提案例2」については、「提案10」についての話し合いシートである。(一部抜粋)なお、考察からの「考えられる取組の視点」は次の①～⑬である。

- ①校内の位置が視覚でとらえられるようにする。
- ②1日の流れを視覚でとらえられるようにする。
- ③校内環境等の工夫をする。
- ④入学当初は友達づくりから始める。
- ⑤小学生になることの期待がもてるようにする。
- ⑥事前に知ったり、体験したりする。
- ⑦児童との信頼関係を築く。
- ⑧相互の教育のつながりを理解する。
- ⑨小学校の給食を知らせる。
- ⑩園において、自分と相手とのかかわり方を体験する。
- ⑪区切りでトイレに行く習慣をつける。
- ⑫年長児保護者の小学校への理解を図る。
- ⑬1年生の保護者に学校の生活や学習を知らせる。

表1 実践提案例1

	困り感	提 案
1年生の困り感	○どこに何があるかわからない ・自分の教室がどこかわからない ・ころんだ時にどこへ行けばよいかわからない	<b>小学校に 提案1 ● 図示する (マーク・顔写真の掲示)</b> ・職員室のドアに1年生の担任の顔写真を低い位置に貼る。(入学当初から写真等の掲示があると効果的、各教室同様) ・保健室のドアにマークと養護教諭の顔写真を貼る。入学式や入学当初に1年生の各教室をまわって養護教諭の紹介をする。 ・1年生の教室から職員室や保健室までの廊下に色分けしたテープを貼る。
	○何をしたいかわからない ・見通しが立たない不安	<b>小学校に 提案2 ● 1日の流れを時計の絵で図示</b> ・朝の会、1時間目、休み時間等の言葉を添えて、時計の絵で示す。 ・事前に知らせる。(1日の流れやトイレに行く適切な時刻)
	○学校は疲れる ・保育園は疲れないけど小学校は疲れる	<b>小学校に 提案3 ● 「ほっ」とできる場所づくり</b> ・校内にほっとできるスペースをつくる。(カーペット・たたみ・ござ・ベンチ・コーナーの使用等)・1時間の授業時間(45分)を短く区切る。・授業内容に変化をもたせる。

1 年 生 の 困 り 感	○友達とのかかわり 方がわからない ・いじわるされた ・泣かされた ・いやなことを言わ れた	<b>小学校に 提案4 ●友達づくりのゲームを行う</b> ・ゲームを通して不安感を取り除き、安心してクラスメートとのかかわりがもてるような機会をつくる。(エンカウンターなどの事例集も参考に) ・ゲームなどの例 「フルーツバスケット」・「じゃんけんゲーム」・「ハイ、タッチ」など <b>幼稚園・保育園に 提案5 ●園での活動を考える。</b> ・いざこざの解決方法を体験を通して学ぶ・自分の言葉で伝えられるようにする。 ・共通の目的、挑戦的な課題等、一つの目標をつくり出し、協力工夫して行う活動(協同的な活動)の見直し・多様な方々とのかかわり・園同士の交流等。
	○不安感が大きい	<b>小学校に 提案6 ●入学に期待がもてるような工夫</b> ・入学説明会、体験入学、フェスティバル、就学児童の健診等での校内見学を利用する。 ・保護者と一緒に、トイレの場所やその使い方について知る。(就学児童の健診) ・1年生の教室に入って、机やいすに座る。・教科書を見る。(就学児童の健診) ・1日の流れや給食、行事等のビデオを視聴する。・幼・保・小の交流(カリキュラムに位置づけた活動)例)「もうすぐ2年生」年長さんを招待するなど・小学校での生活に見通しをもち、幼稚園生活が送れるように、夏休み前の小学校訪問も効果的ではないか。
	○給食・給食当番・ 清掃の様子がわか らない	<b>幼稚園・保育園・小学校に 提案7 ●ビデオ視聴(給食から清掃)</b> ・小学校の給食から清掃までの様子をビデオに撮り園の保護者会、入学説明会等で活用する。 ・家庭でできること、園でできることを行うことで、幼児は体験を通し、自分自身ができることで自信をつけていく。「よそう」・「しぼる」・「むすぶ」・「あつめる」の経験をさせる。
	○いつトイレに行っ たらよいかかわらな い	<b>幼稚園・保育園に 提案8 ●就学前からの習慣として</b> ・活動の前や時間の区切りに、トイレに行く習慣を身に付ける。
教 師 の 困 り 感	○教師の言葉が通じ ない ・何度も聞きに来る ・指示が通りにくい	<b>小学校に 提案9 ●児童との信頼関係を築く (提案4参照)</b> ・朝の出迎えをする。・朝の会、帰りを工夫する。・1日1回は1人ずつの名前を呼ぶ。・ていねいで明確な言葉を使う。・肯定的な言葉かけや「まちがえてもだいじょうぶ」の雰囲気づくりを心がける。・活動の順序を明確にする。・スキンシップ(一緒に遊ぶなど)を図る。
	○幼稚園・保育園・ 小学校のそれぞれ の様子が互いにわ からない	<b>幼稚園・保育園・小学校に 提案10 ●話し合いシートの利用</b> ・小学校教諭が園での様子を知る中で、入学当初の1年生へのかかわり方や1年生が自信をもって取り組める活動などのヒントを得る。・双方の相互理解の一助として使用する。 (表2:実践提案例2 参照) ・双方の参観、研修、交流活動、連携連絡会、懇談会の実施等を行う。
保 護 者 の 困 り 感	○給食 ・時間内に 食べられるか・偏食 がある	<b>幼稚園・保育園に 提案11</b> ・在園児の保護者や教師が給食のビデオを視聴する。 ・在園児の保護者に給食の様子を知らせる。(給食の量・内容・時間など)
	○子どもの様子がわ からない	<b>小学校に 提案12</b> ・保護者に学校生活や学習の様子を知らせる。(こまめに学年便りや学級通信を発行する。) ・1年生の保護者による本の読み聞かせなどを行う。 <b>幼稚園・保育園に 提案13</b> ・在園児の保護者が小学校公開日に参観をする。・在園児の保護者に小学校の様子を知らせる。 ・在園児の保護者に幼稚園、保育園から小学校教育へのつながりについて説明する。

表2 実践提案例2

幼・保・小懇談会等の話し合いシート（対象：年長児）\*項目を選んで話し合ってみましょう。

幼稚園・保育園の 1日の流れ	(時刻) : : _____ (活動の流れ) 登園 降園
よく歌う歌	題名「 」・「 」・「 」・「 」 小学校でも歌えそうな歌はありますか。
手遊び	題名「 」・「 」・「 」 *一緒にやってみましょう。
のり	・容器 ・チューブ ・スティックのり / お手拭用意有り / のり台紙使用
絵の具	・使用 ・ 使用せず / チューブ使用 ・カップで溶いて全体で使用 ・固形絵の具使用
ひらがな	・一斉指導 ・ 必要に応じて個別に指導 ・その他 ( )
当番・係	内容 ( )
掃除の経験	・ほうき ・ちりとり ・ぞうきんの使用
弁当・給食	・弁当 ・給食 (・園内の給食室で調理 ・業者からの容器に入った給食 ・その他 )

(5) 提案に基づく実践検討

①ビデオ視聴（アンケート対象者：保育士・年長児保護者 実施日：平成18年12月～平成19年2月）

給食から清掃までのビデオを作成し上記の対象者が視聴した結果、「保育園・家庭で、生活についての見直しが必要である」という感想が多く挙げられ視覚でとらえた方法が効果的であったと思われる。

②話し合いシート（アンケート対象者：幼稚園教諭・保育士・小学校教諭 実施日：平成19年1月）

アンケートからは、「それぞれの内容を知るきっかけとなった。話し合いの焦点がしぼれた。」という感想が多く挙げられた。今後は、相互理解の手段としてその活用を広めていくことが必要と考える。

III 研究のまとめ

困り感やストレスとなる段差については、大きく「環境の変化」「生活様式の変化」「友達とのかかわり方」「給食・清掃」「授業」等にまとめられた。特に「友達とのかかわり方」については、困り感が多く、友達との遊びを通してストレスを解消しているような姿も見られることから、入学当初の早い時期からの友達づくりが望まれる。今後の課題としては、幼児教育と小学校教育とのなめらかな接続に向け、平成17年度川崎市小学校長会各校種連携研究会議報告にも挙げられているように、「更なる推進に向け小学校ごとに幼・保・小の連絡会を設け、相互の教育活動の理解を深める」ため、地域の小学校と幼稚園・保育園等が十分に連携を図っていくことが必要であると考え。

最後に、本研究を進めるに当たり、ご助言をくださいました講師の先生方、研究にご支援をくださいました研修員所属の校長・園長先生を始め教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

S. ブレデキャンプ他 「乳幼児の発達にふさわしい教育実践」 東洋館出版社 2000年  
「幼児教育と小学校教育をつなぐ」 お茶の水女子大学 子ども発達教育センター 2005年

【指導助言者】

大妻女子大学教授 (川崎市総合教育センター専門員) 柴崎 正行